

まえがき

— 思えば、終わりが始まり —

9年前の10月、朝の4時頃だったか、父からの電話で飛び起きました。今までに聞いたことがないような声色が、全身に突き刺さりました。

「お母さんが……亡くなった」

闘病開始から1年半が経っていました。

一瞬にして、体が緊張でうまく動かなくなったけれど、まだ大丈夫、まだ大丈夫！
と言いつつ聞かせながら、実家へと自転車走らせ、早朝の風を切りながら何度も母の魂

に話しかけていた記憶が甦ります。

母に馬乗りになり、人工呼吸を試みながら大声で呼びかけ続けたことも、早朝の救急車内の様子も、どれだけ長い期間、思い返しては泣いていただろう。救えなかったことを責め続け、呼吸の仕方がわからなくなっていた日々のわたしを、今なら抱きしめてあげることができます。

苦しいことがたくさんあったね、信じられないミラクルもたくさん起きたよね、どれもこれも「愛」しかなかったね、本当によく頑張ったね、と。

阪神・淡路大震災を経験したこともあって、「生きること」については比較的早い段階から向き合ってきたつもりでしたが、あの日、信じてきた「理想の生き方」をすべて見失ってしまいました。

あまりにも前向きに闘病生活に寄り添っていたので、母が早くにあちらへ還ることを選んだことすら裏切られたような気になり、大好きな素敵スピリチュアル（笑）も、宇宙ごと信じられなくなりました。

それがまさか、わたしの人生の「始まり」になるなんて。

(しばらくは認めたくなくて、さんざん宇宙に反抗していましたが。笑)

初めまして。「読むハーモニーのんびりハッピーな調和エッセイ」を手にとつてくださり、ありがとうございます。と、書きながらも、実はエッセイの定義もまだイマイチわかっていない(笑)、ニコまるちはると申します。「どうしてわたしが執筆しているんだろう?」と、不思議な世界へ突然トリップしたような気分です。

あの日の「終わり」から「始まり」に気づくまでの時間が、母からのギフトだったという確信に変わるまで、数年かかりました。

桜や紅葉を愛でることも、お正月を祝うことももうないと思っていました。自然はいつもどおりやさしくわたしたちに触れ続けてくれていました。

これを時の流れとして「時間が癒やしてくれた」という表現もできるのですが、わたしはその生き方をやめようと思ったのです。時間に頼るには、あまりにも厳しい状

態にまで自分が陥っていたからです。

この経験以来、「時間が癒やしてくれるよ」という励ましの言葉を誰かに使わないようにしています。もちろん、やさしい想いから発せられる言葉なのですが、「時間がかかるよ」とも受け取れて、あの日のわたしには重いメッセージでした。

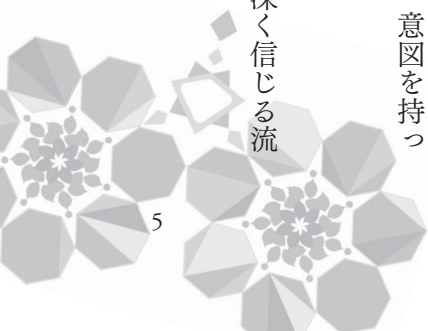
そして望んだのです。

遺された者として生きるのを卒業しよう。

流れてくるものを受け身で捉え、癒えるのを静かに待ち続ける在り方をやめていこうと。

そんなことを思い始めているうちに、自分の意思をしっかりと発動させ、意図を持つて生き直す本当のわたしが目を醒ましました。

あれほど嫌いになった宇宙を（笑）もう一度、いいえ、むしろさらに深く信じる流れに、いつの間にか動かされていました。



こうして改めて愛を受け取ったわたしが、今だからこそ言葉にできることがあるんじゃないかと、早速、大好物の観えない世界からの視点で表現すると、背後と上空からの「お誘い」を感じずにはいられないのです（笑）。

一番起きてほしくなかった出来事から、新たに人生が始まってしまったわたしに、こまるちはるの、180度軽快に回転した倅せセンサーを、惜しみなくここへ詰め込ませてもらえるのかと思うと、感謝とワクワクでいっぱいです。

わたしがこの数年で知った世界は、これまで信じていた世界よりもシンプルで、とてもやさしいエネルギーに満ち溢れています。

「本来の自分を生きる」というのは、何よりもパワフルでアホ〜でハッピーですよ！

誰もが「自分を生きていいんだよ」、このオープンな包容力ともいえる安心エナジーを、今度はわたしが恩返しし、循環ループへと風船を飛ばす番です。

日本語に自信はありませんが、せめて地球語にして（笑）膨らませたいと思います
ので、最後までお付き合いいただけるととても嬉しいです。
ニコまるちはるからの風船を受け取ってください。